

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100360		
法人名	有限会社 前田メディック		
事業所名	敬愛 グループホーム		
所在地	香美市 香北町 美良布899		
自己評価作成日	平成24年 5月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域や地自体と接点を持ち、地域交流に力を入れている。会合にもできるだけ参加する様に心掛け挨拶運動や、作業活動にも協力をしています。
主治医による定期的な往診で断続的に健康管理ができており、ホームでの健康管理は常に看護師が日常の表情などから判断、チェックできている。看取りにも対応ができています。入居者や家族に気兼ねなく安心して、生活して頂く為のホームづくりをめざしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972100360&SCD=320&PCD=397
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年6月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居している利用者が大変元気である。共用空間であるリビング・ダイニングから笑い声や話し声が常に聞こえ、和やかな雰囲気である。職員の利用者に対する声掛けが丁寧であり、利用者と職員の良好な関係が見受けられる。理念で掲げている利用者の尊厳の確保を実行している証として、気兼ねなく話ができる関係が築かれている。職員の介護に対する意識も高く、現在提供している介護に満足するのではなく、「これでいいのか」と自身で振り返りながら業務にあたっている。事業所の方針として看取りも積極的に行っているが、その点についても職員は責任の重大さをしっかり意識して対応している。地域との関係も良好であり、清掃や神社の祭りに積極的に参加するとともに、事業所で収穫される農作物を近所にお裾分けしよう計画するなど、地域に根ざした事業所へ発展することに期待がもてる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者を常に尊重し敬意、愛情を持って接しているサービスの提供場面で反映しているか振り返りをする事で意思の統一ができていのか職員で話し合う事もできている	事業所独自の理念を掲げ、業務にあたって3ヶ月に1回のスタッフミーティングで周知している。理念どおりに、人生の先輩として敬意をもって接し、地域の一員としてコミュニケーションを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	イベントなどにも積極的に参加し、地域の方とのコミュニケーションをはかっている。散歩や買い物に出かけた際近所の方と挨拶を交わすことが自然にでき、親しみの関係をつくることを心掛けている	町内会に加入し、地域の清掃や神社の祭りに参加している。散歩の時は挨拶や会話を交わすとともに、事業所で収穫した農作物を近所におすそ分けする計画を立てるなど、積極的な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまりGHの存在をご存知ない方が地域にも多くGHがどんなところか理解されていない部分がある。地域での様々な研修や会合にかかわりをもち認知症ケアの啓発に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の家族や民生員、消防所の方、包括支援センターの方にも参加していただき、情報交換は出来ている	定期的な開催は現在のところ行なわれていないが、開催時は家族、地域代表、行政からの参加を得ている。事業所からの報告を行なうとともに要望を聞き、行事や運営に取り入れている。	健全な事業所運営のためにも2ヶ月に1回の開催を定着させるとともに、外部評価の結果を踏まえた目標達成計画を提示し、意見交換ができれば、より透明性のある運営に繋がるので、是非実行を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は密にはできていない。事業所の実情やケアサービスの取り組みをもっとつたえていこうにしたい	運営推進会議に行政の担当者の出席もあり、事業所の状況については理解されていると考えるが、決して積極的な交流は図れていないとの管理者からの話しが聞かれた。	ボランティア依頼や地域の福祉資源の活用など積極的に行政に相談し、親密な関係構築を図ることを望む。ひいてはそれが地域の事業所同士の連携につながるののでそれに向けての努力を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束はなし、玄関の施錠については家族様とも話し合った結果、ある一定の時間や眼の届かないときなど短時間のみ施行している	利用者の生命に関わる状況ということがあり、運営推進会議で検討し施錠する時間を設けている。身体拘束廃止の意味は職員も理解している。また、利用者の行動傾向を把握すべく努力もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GHでの虐待はないが職員の言葉がけについてはいけな言葉や職員間の禁止語句を周知したり接遇マナーについての勉強会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んだり、情報は職員どうしで、提供し合っている。職員全体が理解するまでには至っていないが研修等を通じて理解してもらえるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明 利用料やこれから起こりえるリスク、重度化や見取りについての対応、医療連帯体制の実施などについては詳しく説明しできるだけ不安を取り除いた形での同意を得るよう心掛ける。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満は言葉のみでなく、態度等からも察し、職員間で話し合い改善につとめながら入居者の声が外部に表せれる機会を作って行きたい	意見箱を設置するとともに、事業所での行事の後に、茶を飲みながら家族と話す機会を持っている。要望が出た時にはミーティングで職員と話し合い、取り組みが可能であれば運営に取り入れている。	要望や意見が出た時には話し合いを行い、結果について家族に報告しているが、これを文書化しておくことで統一した対応ができることから、マニュアル化することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	仕事に対する思いや意見、提案等の話し合いの場をもうけ、運営に関する意見や提案も聞き入れる環境を整えている。	朝のミーティング時に職員の意見や介護の工夫などを聞き、取り入れている。また各種の委員会を設置し職員が役割を持つことで、事業所の運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の配慮や有給休暇がきちんと取れ、勉強会にも積極的に参加できるように環境を整えていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や実績を把握し、研修計画を立て1回以上は外部での研修に参加できるよう配慮し学習したことをホームで活かせるように話し合いの時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所間で勉強会や研修を通じて交流を深め、介護職員の室の向上に勤めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族が見学に来られた際に丁寧に対応し聞きたいことや不安におもっていることがあれば傾聴するように努め、入居者にはゆっくりと時間をかけて信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望にはできる限り解決ができるように対策していき、家族の意見は貴重であることを職員全員で考えていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後、家族、ご本人からアセスメントした情報の中からその人らしい生活が送れるように最善のサービスの提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側ではなく、高齢者の知識と経験に対し、常に尊敬と敬意をもてる関係づくりを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の訪問時や入居料の支払いの折に面談の時間をもうけ、日頃の様子や職員の思いについて情報の共有を図り協力していただいている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。</p>	<p>入居時の聞き取りで把握に努め、利用者ごとに職員が寄り添い、しっかりと生活状況を確認し、職員間で共有する体制を取っている。その情報をもとに、馴染みの店や場所に、ドライブの際に訪問するなどの支援を行なっている。また3ヶ月に1回は馴染みの理髪店に来てもらっている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>声掛けや見守り等を行うことで孤立していかないように職員で配慮していく</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>元入居者をイベントに招いたり、その後の家族間での状態を聴く機会をもっている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者や家族の方の思いや意向を言いやすい様な関係づくりに心がけ、得た情報は職員間で共有意向を把握できにくい入居者の場合、家族の方に相談し言葉や表情で思いを汲み取れるように日々観察していく</p>	<p>フェイスシート作成時にしっかりと聞き取るようにしている。利用者からの聞き取りが困難な場合は、家族や身近な人から聞き取りを行なっている。日々の業務の中では、利用者の言動から、できる限り汲み取るように努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>得た情報はフェイスシートを利用し職員間で共有し有効に把握することに努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、食事の摂取量、排泄チェック等や朝の申し送り等だ身体状況を把握し職員間で情報を供給している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や家族、だサービス担当者会を行い意見を聞き計画書に反映している。	介護計画やモニタリング時は、ケアマネジャーが中心となって利用者・家族の要望をもとに作成するが、朝のミーティングで、職員からの意見を聞き反映している。また体調や介護度など状況が変化したときは随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に一日の変化や気になったことすべて、記入を徹底し、朝の申し送りで情報供給し不十分なところは職員や実際にたずさわったかたに情報を得ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力や、必要に応じて柔軟な支援にて対応している。個別のニーズにあわせて参加するようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防の方々に協力が得られるように働きかけているが地域資源の内容や利用については十分に把握しきれていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による2週間に1回定期的に往診をしてもらっている。状態や変化に応じて、家族の方と相談、意向を確認し連絡は密に取れている。	基本的には協力医療機関へのかかりつけ医の変更をお願いしている。専門医療については利用者の希望する医療機関の受診を推進している。その際は家族対応であるが、都合が付かない時は事業所対応も可能である。受診結果は家族から聞いたり情報提供書をもって共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師や常勤の看護師がおり、なにか変化や相談事にも対応できるように、その都度状況に応じて、受診や看護ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連帯を持ち、退院後の受け入れ態勢を整えている。早期退院ができるように医療機関と話し合いを行い、比較的早い段階で退院ができ、顔なじみの職員が迎えに行くことで安心感を提供することができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初からみとりについての家族の意見や本人の意向が把握できる場合は、意見を尊重し、ご意向を伺い、意向がなるべく反映されるようにしている。ターミナル期には職員、家族で終末期のあり方について具体的に話し合い、相談を密にしている。	協力医療機関が近隣にあり、その医師が事業所の隣に居住しているので、緊急時は即座に対応できる体制にある。看取りの経験も多く、積極的に受け入れている。指針も作成されており、安心して任せられる環境になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部の研修や勉強会での実技をおこなっている。また緊急時マニュアルの作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防署員の方の立会いの元、訓練を実施しているスプリンクラーの設置、火災報知機の使用方法なども職員全員が操作できるように指導している。	年に2回の防災訓練は、消防署の協力のもとに実施している。指定避難場所と経路については周知されており、備蓄も水と調理の必要のない食料が備えられている。	夜間の防災に関しては夜勤職員では対応が難しい。夜間を想定した訓練と地域住民の協力を得ることが、利用者が安心して生活できる環境には欠かせないので、実施することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護への取り扱いには気をつけている。人格、プライバシー保護の為、入居者は完全個室になっており、洗濯物や掃除にかんしても必ず声掛けを実施している。	トイレや入浴への誘導の際には、大きな声かけを行わないようにし、必ず入口扉を閉めるようにしている。利用者の知人等からの問い合わせに対しては、個人情報を提供しないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の日常生活が自らで選択できるような環境づくりに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々の入居者のペースに合わせ、その日の体調や思い、気持ちに十分に配慮しながら個性を重視した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みにあわせ、職員のさりげない配慮やきくばりでカバーできている。地元の顔なじみである美容師さんに出張出来てもらい散髪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が協力してやってもらっている。入居者の希望に応じた食材や季節感の味わえる食材の工夫をしている。食事を楽しみにしている入居者も多く、献立会議も行っている。	可能な利用者には、食材の下ごしらえや配膳、下膳といった役割を担ってもらっている。できる限り職員と一緒に食事しているが、食堂の広さの関係もあり職員全員が同じテーブルで食事することは難しい。利用者と同じメニューで食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表のチェックシートを活用し食事や水分量を記入して必要量が確保できるように心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、入れ歯の洗浄を行うよう指導している。口腔内がいつも清潔であることを留意している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけきまった時間にトイレ誘導し、排尿、排泄パターンを重視している。	利用者ごとの排泄チェック表を利用し、排泄パターンの確認を行っている。リハビリパンツやオムツ使用の利用者が多く、できるだけトイレへの誘導を行いたいとの意思は持っている。ただし、誘導の意思はあるが、利用者が拒否するので無理と考えている傾向がある。	意思の尊重は重要であるが、一步踏み込んだ対応でオムツ外しができれば、利用者の生活の質向上になるので、より積極的に取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から、水分の摂取量に注意しながら、食物繊維の多い穀物類を食事に取り入れ、それでも便秘傾向の入居者は意思の支持のもと、下剤などの処方ももらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が決まっている入居者のいらっしゃるが、基本的には曜日は決めておらず、その都度実施している。入浴時間は昼間に設定している。	入浴は週3回午前中に設定しているが、利用者の希望があれば設定日時以外でも入浴可能である。拒否がある利用者には「ニュー YORKに行きませんか？」と声かけしたり、入浴剤の使用で気分を盛り上げる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室であるため個別的に休息がとれている。不眠等で夜間徘徊があっても眠剤などは検討しないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は看護師がおこなっている。内容や副作用については、薬剤師に相談。薬の内容が記載されたものをカルテにとじ、職員が理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意なことを積極的に進めていき気分転換にできるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩は希望者と職員管理で一緒に出かけている。買い物も希望者で車だ職員と一緒にできることができ、外出支援は十分できている。	天気のいい日は散歩に出掛けている。家族の提案を受け入れ、バーベキューや流しそうめんを屋外で実施したり、2ヶ月に1回は外食を行い、さらに事業所の行事でドライブに出掛けている。ただし、車椅子対応の車がなく、車椅子の利用者の外出に制限が見られる。	車椅子対応の車を購入する必要性までは無いが、工夫することで解決できないか、利用者のために努力してみたいことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のおこずかいとしてホームで個々に財布をあずからせてもらっている。買い物やドライブでほしいものはおこずかいからしはらってもらい、家族にいくらの方が報告し、残金のチェックもしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話を掛ける支援はしていない。手紙は手渡しで家族に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わってもらえるように花を植えたり、植物を育てている。玄関先や、入居者がよく集まるリビングに季節感ある花のダミーや垂れ幕をし、季節感をだせている。	リビング・ダイニングは広くはないが、窓が大きく日当たりが良い空間である。利用者の作品や落ち着いたある絵画や花を飾ってある。廊下の中央には適度な大きさの談話場所があり、家族とも話し易い環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングにはソファを配置しゆっくりくつろいでもらえる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で実際に使用していた家具や、思い入れのある物など家族と相談し、協力をしていただき、居室に置いてある。	すべての居室に畳が使われており、落ち着いた過ごせる環境にしている。照明も昔ながらのひも式の家庭用であり、自宅の雰囲気を出している。馴染みの家具や写真、人形等を飾り、利用者の個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりも設置してある。環境整備を心がけ、歩行の障害にならないように心掛けている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				